

# 校内農業クラブ員が農業クラブを理解し、一丸となって活動を盛り上げていくためにはどのようにしたらよいか

北信越ブロック 新潟県立加茂農林高等学校

生産技術科 3年 今井 丈瑠

生産技術科 2年 市川 諒

生産技術科 2年 渡邊沙央里

## 1 はじめに

北信越ブロック連盟は、福井県3校、石川県4校、富山県5校、長野県11校、新潟県9校の5県32校からなるブロックです。

新潟県連盟は新発田農業高等学校、長岡農業高等学校、高田農業高等学校、加茂農林高等学校のプロパー校4校と村上桜ヶ丘高等学校、佐渡総合高等学校、巻総合高等学校、柏崎総合高等学校、十日町総合高等学校の総合高校5校の計9校で構成されています。



私たちの加茂農林高等学校は明治36年に新潟県立農林学校として開校した創立113周年の歴史ある学校です。本校は平成18年に学科改編をし、現在、1年次農業科5学級のくくり募集、2・3年次には環境緑地科、生産技術科、食品技術科、生物工学科の10コースに分かれて、より専門的な授業を受けています。また、来年度より生命情報コースが新設される予定で現在調整が進められています。

## 2 本校での活動事例

本校農業クラブでは「校内農業クラブ員が農業クラブを理解し、一丸となって活動を盛り上げていくためにはどのようにしたらよいか」というテーマにしたがって、本校で実際に行っている取り組み及びその成果について紹介します。



## ①新入生オリエンテーション

4月に行われたオリエンテーションでは、新入生に農業クラブに興味を持ってもらい、一日もはやく馴染んでもらうことが必要です。年間の活動状況についてビデオ制作を行い、動画を用いてイメージしやすいようにしました。また、堅い、真面目すぎる、取っ付きにくいと言うことがないように本校農業クラブマスコットキャラクター「のうのう」を用いて、農業クラブの行事や各種競技などについてわかりやすくなる



のうのう

ように工夫しました。(のうのうは各種イベントに役員が扮して登場します) さらに、「のうのう」への質問コーナーや最前列の生徒達とハイタッチを行い、新入生の緊張をほぐしてもらう様に演出を工夫しました。終了時にはアンケートをとり、農業クラブに興味を持ちましたか?という質問に対し、約90%の1年生が「はい」という好意的な反応がありました。しかし、まだこの時点では1年生は右も左もわからない状況であり、もう少し活動内容をアピールする必要があると感じました。

## ②ふれあい農園

近隣の加茂小学校との交流で、作物部門が行っている田植えや稲刈りとともに農業クラブが毎年行っている行事です。このふれあい農園には小学生の親子で参加していただいております。今年第1回目を5月29日に行いました。今回は、ペットボトル等の身近な容器を利用した、もやしの播種と、本校の畑においてサトイモの定植を行いました。そして秋にはこのサトイモの収穫とそれを使った昼食会及びレクリエーションを行う予定です。



さて、当イベント開催に当たっての本校からの参加者ですが、いつもは農業クラブ役員だけで行っていましたが、これではせっかくの交流が広がらないということから、各クラスから選出されている農業クラブ委員の参加、さらに他の生徒からも気軽に参加できるように、ポスターによる呼びかけ等を行いました。その結果、子ども好きや行事に参加してみたいという有志の参加もあり、当日の運営においても役員以上の働きを見せてくれた生徒

もいました。後日、参加してくれた有志の生徒に役員の勧誘を行ったところ、数名が承諾してくれ、現在役員として日々活動に参加してくれています。

### ③加茂川周辺や通学路のゴミ拾いを行うクリーン作戦

この行事も本校農業クラブが得意とする行事であり、加茂駅からの通学路やその周辺をキレイにしたいという事から毎年行っています。今年は5月中旬のテスト最終日に行く予定を組み、参加希望者も多数居たのですが雨天のため中止延期し、6月1日に行いました。本校の日程がかなりきつい中、自由参加にもかかわらず多数の生徒が参加し近隣地域をキレイにすることができました。



特に、1・2年生よりも3年生の参加が多く、社会に出る前段階としての自覚を持ち、積極的参加が多かったのではないかと思います。また、クリーン作戦



を行う度に近所の方々からお褒めの言葉をいただき地域からも高い評価を得ています。さて、これをきっかけに農業クラブ自体の活動が盛り上がったわけではないですが、農業クラブ役員の呼びかけによるボランティア活動に対して、一丸となって協力したいという気持ちがそれぞれにあるということがわかります。

### ④古紙回収

本校では2週に一度の割合で古紙回収を行っています。学校の中には非常に多くの紙類が存在し、毎日たくさんの紙が不要となって排出されています。そこで、これを資源とし回収をしようという目的で古紙回収がスタートしました。教室や教務室などから出た紙類を回収し、定期的に校内の一室に運んでためておきます。大量になってきたら業者に依頼し、持って行ってもらいます。加茂市では再生資源回収事業補助金制度があり、回収業者からの明細書を提出するといくらかもらえるようになっており、去年は年間で約4万





円程度収益がありました。こうして得た収益金は各種大会参加のための交通費の一部や農業鑑定学習の為の資材購入等、農業クラブ全体の活動費として活用しています。

#### ⑤呼びかけ

今年度積極的に取り組んだことは各クラスへのポスター掲示や声掛けなどの PR を強化したことです。これによって一緒にやりたいという仲間が増えたように思います。よって、これからは農業クラブの様々な行事において参加者を待つのではなく、積極的に呼びかけをし、少しでも感心のある生徒に農業クラブ行事へ参加してもらえよう努力をし続けることが必要と感じました。

### 3 まとめ

農業クラブは日頃どんな活動をしているのかが一般生徒に伝わりづらく、興味を持って若干の距離があり、役員として活躍したり、有志でイベントに参加しようという気持ちになりにくかったのではないかと考えられます。特に農業学習の延長上にある意見発表会や農業鑑定競技、校内プロジェクト発表会、及び農業クラブ総会などにおいては、開催や準備を農業クラブ役員や委員だけで行っているような状態になっています。クラブ員の中には潜在的に活動に参加したいのだが、なかなか踏み込めず、何か機会があれば一緒にやりたいと言う生徒も多いように感じました。また、地域との関わりにより、農業高校の素晴らしさのアピールも行い、お互いにとってプラスとなるように農業クラブの役割を果たしていく必要があるかと思えます。そこで、農業クラブ活動をクラブ員全員が理解し、さまざまな行事に参加できるようアイデアを出しあい積極的に働きかけていくことが大切であると考えます。



本校では、行事ごとのポスター制作や熱心な声掛けが、各種行事の参加を迷っていた生徒の後押しをすることができたのではないかと思います。あきらめるよりも身近なところからの呼びかけが一丸となった活動へと発展していくものと考えます。